

安宅校下のまいぶんマニュアル

☆☆安宅校下ってこんなところ！☆☆

地形／安宅校下の大半は、日本海沿岸の砂丘にあります。

この砂丘は縄文時代におこった海面の上昇と低下によってできたもので、

平地・山地に比べて遺跡は少ないですが、「北陸道（安宅駅）」や「安宅湊」など交通の要衝として栄えたことが、物資の流れや古い文献から読み取れます。江戸時代には北

海道と大阪を結ぶ北前船の寄港地となり、ますます栄えました。また、「安宅の関跡」

（県指定文化財）は、能の「安宅」や歌舞伎の「勧進帳」にも登場する源平ロマンあふれる歴史舞台です。

年表に登場する遺跡／安宅中世墓群（安宅町）

おもな時代は室町時代。教科書の小単元は「今に伝わる室町文化」～「戦国の世から天下統一へ」。

ポイント①＝小学校周辺で見つかった室町時代の石塔群。小学校は、もともと「聖興寺」という寺院があったと伝わる場所。

ポイント②＝見つかった石塔群は、墓標や供養塔としての意味合いを持ち、港町を支えた有力者たちのものと考えられます。

ポイント③＝石塔群は、安宅小学校や安宅校下の寺社、埋蔵文化財センターなどに保管されています。

「永正十四年」（1517年）と彫られた部分



安宅中世墓群出土の石塔



遺跡の位置

『新修小松市史』資料編四

『冷泉為広越後下向日記』より

アタカノ浜トヲシ。

住吉社、松原アリ、

アタカ聖興寺一宿也。

〔西暦一四九一年〕
〔延徳三年三月〕十九日、天晴、（中略）

室町時代、京都から新潟方面へ旅をした歌人の冷泉為広の日記に、「安宅聖興寺」、「（安宅）住吉社」、「安宅の浜」が登場する。また、「安宅の橋」は鎌倉時代に歌によむべき名所としてとりあげられ、たびたび文芸作品に登場する

※ただし、これらは現在の場所とは若干ちがう可能性もあります

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



地形の説明



安宅校下の遺跡